

資料 6

参考資料

6 参 考 資 料

- (1) 水中遺跡調査検討委員会の設置について
- (2) 水中遺跡調査検討委員会委員
- (3) 水中遺跡調査検討委員会協力者
- (4) 水中遺跡調査検討委員会における検討経緯
- (5) 委託事業「水中遺跡の保存活用に関する調査研究」
(受託者：独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館)

(1) 水中遺跡調査検討委員会の設置について

平成25年2月27日

文化財部長決定

1. 目的

我が国には、これまで200を超える水中遺跡が存在していることが知られ、これらは、海洋国家である我が国の成り立ちや海外との交流の歴史を知る上で欠くことができない貴重な文化遺産である。

平成24年に元寇船が沈没している鷹島神崎遺跡が史跡に指定されるなど、水中遺跡への国民の関心も高まっている。

しかしながら、水中遺跡は水中に所在するという特殊な立地条件にあり、我が国においては、その調査・保存の手法が未だ確立されていない。

そのため、我が国の水中遺跡の調査、保存及び活用について検討を行う「水中遺跡調査検討委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

2. 検討事項

- (1) 水中遺跡の調査に関する事項
- (2) 水中遺跡の保存活用に関する事項
- (3) その他関連事項

3. 構成

- (1) 委員会は、学識経験者により構成する。
- (2) 委員会は、互選により委員長を選出する。委員長に事故があるときは、あらかじめその指名する副委員長が、その職務を代理する。
- (3) 委員会には、必要に応じ、委員以外の学識経験者等の出席を求めることができる。

4. 庶務

委員会に関する庶務は、文化財部記念物課で処理する。

(2) 水中遺跡調査検討委員会委員

(敬称略、五十音順、平成29年4月現在)

(◎：座長 ○：副座長)

- | | |
|--------|---|
| 赤司 善彦 | 九州歴史資料館企画主幹兼学芸調査室室長補佐
(元福岡県教育庁文化財保護課長) (平成26年4月から) |
| 池田 榮史 | 琉球大学法文学部教授 |
| 伊崎 俊秋 | 福岡県教育庁文化財保護課課長 (平成26年3月まで) |
| 今津 節生 | 奈良大学文学部教授 (元独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館学芸部博物館科学課課長) |
| ○小野 正敏 | 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館
名誉教授 |
| 木下 尚子 | 熊本大学人文社会科学研究部教授 |
| 木村 淳 | 東海大学海洋学部特任講師 (元マードック大学アジア研究所
研究員, 元フィールド自然史博物館研究員) |
| 小泉 恵英 | 独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館学芸部長 (平成
28年4月から) |
| 高妻 洋成 | 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財セ
ンター長 |
| 坂井 秀弥 | 奈良大学文学部教授 |
| 佐藤 信 | 東京大学大学院人文社会系研究科教授 |
| 土屋 利雄 | 国立研究開発法人海洋研究開発機構観測技術担当役 |
| ◎西谷 正 | 宗像市郷土文化学習交流館海の道むなかた館館長 (元九州歴
史資料館館長) |
| 御堂島 正 | 大正大学文学部教授 (元神奈川県教育委員会文化遺産課課長) |
| 林田 憲三 | NPO法人アジア水中考古学研究所理事長 |

【オブザーバー】

長崎県教育委員会
松浦市教育委員会

(3) 水中遺跡調査検討委員会協力者

(敬称略、都道府県順、平成29年4月現在)

【協力者】

小笠原雅行	青森県教育庁文化財保護課 総括主幹
天野 順陽	宮城県教育庁文化財保護課 技術補佐
竹田 純子	山形県教育庁文化財・生涯学習課 主査
深澤 敦仁	群馬県立歴史博物館 教育普及係長
吉田 敬	千葉県柏市教育委員会事務局生涯学習部文化課 専門監
伊藤 敏行	東京都教育庁地域教育支援部管理課 統括課長代理
長岡 文紀	神奈川県教育委員会教育局生涯学習部文化遺産課 グループリーダー
滝沢 規朗	新潟県教育庁文化行政課 副参事
河合 修	静岡県教育委員会文化財保護課 主幹
鈴木 一有	静岡県浜松市市民部文化財課 主幹
木戸 雅寿	滋賀県教育委員会文化財保護課 参事
石崎 善久	京都府教育庁指導部文化財保護課 記念物担当副課長
森屋 直樹	大阪府教育庁文化財保護課 課長
藤井 幸司	公益財団法人和歌山県文化財センター埋蔵文化財課 課長
柏原 正民	兵庫県教育委員会文化財課 主幹
松尾 充晶	島根県古代文化センター 専門研究員
大橋 雅也	岡山県古代吉備文化財センター 参事
沖 憲明	広島県教育委員会事務局管理部文化財課 指導主事
乗松 真也	香川県教育委員会生涯学習・文化財課 主任文化財専門員
吉田 東明	福岡県教育委員会文化財保護課 企画係長
長家 伸	福岡県福岡市経済観光文化局文化財部史跡整備活用課 係長
白木原 宣	佐賀県教育庁文化財課 主幹
中山 晋	沖縄県教育庁文化財課 主任専門員
清野 孝之	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 考古第三研究室長

【オブザーバー】

和田 勝彦	公益財団法人文化財虫菌害研究所 常務理事
赤司 善彦	九州歴史資料館企画主幹兼学芸調査室 室長補佐
佐々木蘭貞	独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館 博物館科学課 アソシエイトフェロー

(4) 水中遺跡調査検討委員会における検討経緯

※◎は委員会の開催、○は協力者会議の開催

【平成 24 年度】

◎3月22日(金) 第1回水中遺跡調査検討委員会(霞ヶ関ビル32階 東海大学校友会)

- ・本委員会の設置趣旨説明(事務局)
- ・文化庁における水中遺跡保護の取組
- ・元寇沈船の調査・研究の取組 池田榮史(琉球大学)
- ・日本とアジアの水中考古学 西谷 正(当時:九州歴史資料館)
- ・海外の水中遺跡の現状 木村 淳(当時:マードック大学)

【平成 25 年度】

◎7月17日(水) 第2回水中遺跡調査検討委員会(長崎県松浦市役所 鷹島支所)

- ・福岡県における水中遺跡の保護の取組 伊崎俊秋(当時:福岡県文化財保護課)
- ・NPO 法人アジア水中考古学研究所の取組 林田憲三(NPO 法人アジア水中考古学研究所)
- ・水中遺跡の調査・保存・活用 今津節生(当時:九州国立博物館博物館科学課)

【視察】※前日(7/16)に委員会による史跡鷹島神崎遺跡の視察

10月16・17日(水・木) 史跡鷹島神崎遺跡における無人探査機による実験

◎1月23日(木) 第3回水中遺跡調査検討委員会(文化庁 特別会議室)

- ・開陽丸の保護の取組 藤島一巳(元北海道江差町教育委員会)
- ・松浦市における水中遺跡の保護の取組 中田敦之(長崎県松浦市教育委員会)
- ・オーストラリア海事考古学研究所第13回会議報告 (事務局)
- ・史跡鷹島神崎遺跡における水中遺跡探査実験報告 (事務局)

◎3月14日(金) 第4回水中遺跡調査検討委員会(文化庁 第2会議室)

- ・現位置保存処理ー水中文化遺産管理への段階的アプローチの適用
ヴィッキー・リチャーズ(西オーストラリア博物館)
- ・アジアにおける西オーストラリア博物館の活動
ジャーミー・グリーン(西オーストラリア博物館)
- ・平成25年度委託事業の概要 (事務局)

【平成 26 年度】

◎7月14日(金) 第5回水中遺跡調査検討委員会(九州国立博物館 研修室)

- ・オランダにおける水中遺跡の保護の取組
マーティン・レネ・マンダース(オランダ政府海事プログラム局)

・九州国立博物館における史跡鷹島海底遺跡出土遺物の保存と活用 (視察)

10月17日(金)～29日(月) 鹿児島県宇検村倉木崎海底遺跡の調査・実験

【視察】※10/18～20に委員会による倉木崎海底遺跡の視察

◎11月14日(金) 第6回水中遺跡調査検討委員会(九州国立博物館 研修室)

・デンマーク・スウェーデンにおける水中遺跡保護の視察について (事務局)

・鹿児島県宇検村所在倉木崎海底遺跡における調査・実験について (事務局)

・水中無人探査機による調査報告 (事務局)

・九州国立博物館における高精細撮影による水中遺跡の展示手法 (視察)

◎1月30日(金) 第7回水中遺跡調査検討委員会(文化庁 第2会議室)

・デンマークにおける水中遺跡の保護の取組

ヨーエン・デンカー (ヴァイキング博物館)

・デンマークにおける水中遺跡の保護の手法

デイビッド・グレゴリー (デンマーク国立博物館)

【平成27年度】

◎5月29日(金) 第8回水中遺跡調査検討委員会(文化庁 第2会議室)

・韓国における水中遺跡の保護の取組 文 煥哲 (韓国国立海洋文化財研究所)

・水中遺跡に関する行政実務上の整理 御堂島正 (大正大学文学部)

・『日本における水中遺跡保護の在り方について』(中間まとめ)(以下『中間まとめ』という。)の概要と章立て説明(事務局)

10月1～10日 福岡県新宮町相島海底遺跡の調査・実験

【視察】※10/8は委員会による相島海底遺跡の視察

◎10月9日(金) 第9回水中遺跡調査検討委員会(九州国立博物館 研修室)

・フランス・アメリカにおける水中遺跡保護の視察について (事務局)

・ヴァレッタ条約について (事務局)

・『中間まとめ』の検討 (事務局)

10月20～27日 沖縄県多良間村ファン・ボッセ号の調査・実験

○1月21・22日(木・金) 第1回水中遺跡調査検討委員会協力者会議(文化庁 特別会議室)

◎2月26日(金) 第10回水中遺跡調査検討委員会(文化庁 特別会議室)

・『中間まとめ』の検討

3月25日 『中間まとめ』の刊行

【平成28年度】

○5月17・18日(火・水) 第2回水中遺跡調査検討委員会協力者会議

(17日：松浦市鷹島歴史民俗資料館 18日：九州国立博物館 研修室)

- ・史跡鷹島神崎遺跡の視察
- ・『水中遺跡保護の在り方について』（報告）（以下『水中報告』という。）の検討

◎8月10日（水） 第11回水中遺跡調査検討委員会（文化庁 特別会議室）

- ・福岡県新宮町相島海底遺跡における調査・実験について（事務局）
- ・イタリアにおける水中遺跡保護の視察について（事務局）
- ・『水中報告』の検討

○11月24日（木） 第3回水中遺跡調査検討委員会協力者会議（日本航空協会 航空会館）

- ・『水中報告』の検討

◎2月17日（金） 第12回水中遺跡調査検討委員会（金融庁13階 共用会議室）

- ・『水中報告』の検討

【平成29年度】

○5月15・16日（月・火） 第4回水中遺跡調査検討委員会協力者会議（金融庁9階 共用会議室）

- ・『水中報告』の検討

◎6月30日（金） 第13回水中遺跡調査検討委員会（文化庁 特別会議室）

- ・『水中報告』の検討

(5) 委託事業「水中遺跡の保存活用に関する調査研究」

平成 24 年度に文化庁が設置した「水中遺跡調査検討委員会」の議論に資するため、国内外での水中遺跡の保存・活用に関する諸課題について調査研究する目的で、平成 25 年度より標記の公募事業を各年度で実施した。

文化庁が示した仕様書に基づいて提出された企画提案書を毎年度審査し、平成 25～29 年度は九州国立博物館に事業を委託した。事業は、海洋研究開発機構・琉球大学・東海大学・各地方公共団体等の協力を得て実施された。

1 国内の水中遺跡保護状況調査事業

平成 12 年度の文化庁による地方公共団体へのアンケートを集計分析。その中で沈没船が確認された遺跡や調査を実施した遺跡について、現地を訪問し関係者と面談を行い資料を収集。

- 25 年度 長崎県松浦市（史跡鷹島神崎遺跡）・鹿児島県宇検村（倉木崎海底遺跡）
- 26 年度 北海道江差町（開陽丸）・北海道上ノ国町（漁港遺跡）・沖縄県多良間町（沈没船）
- 27 年度 和歌山県串本町（オスマントルコ帝国軍戦艦エルトゥールル号）・神奈川県鎌倉市（史跡和賀江嶋）・宮城県石巻市（慶長使節船サン・ファン・パウティスタ号の復元と活用）
- 28 年度 新潟県・滋賀県・静岡県・福岡県の 4 県をモデルに、海難・漂着史料の取りまとめ
- 29 年度 各県の漂流・漂着、難破等に関する文献情報の収集整理

2 国外の水中遺跡保護状況調査事業

海外の水中遺跡保護機関を訪問し、水中遺跡の保護に関する法制度・体制や調査・保存・活用の現状と課題について面談調査。併せて専門家を招聘し協議を実施。収集に努めた。

- 25 年度 調査 韓国・中国・オーストラリア・イギリス・オランダ等
招聘 西オーストラリア海事博物館担当者
- 26 年度 調査 デンマーク・スウェーデン
招聘 オランダ文化庁・デンマーク国立博物館担当者
- 27 年度 調査 アメリカ・韓国
招聘 韓国海洋文化財研究所担当者
- 28 年度 調査 イタリア・中国

3 水中遺跡の調査手法の検討事業

探査手法を確立するために、実際に機器類を用いた各種の実証実験を実施。さらには潜水調査や伝承記録等の調査を実施。

- 25 年度 長崎県松浦市史跡鷹島神崎遺跡（探査）

- 26 年度 鹿児島県宇検村倉木崎海底遺跡（探査・潜水）
- 27 年度 福岡県新宮町相島沖（探査）・沖縄県多良間町ファン・ボッセ号遭難地（探査）
- 28 年度 福岡県沖ノ島周辺海域（探査）・福岡県新宮町相島海底遺跡（潜水）・沖縄県多良間町ファン・ボッセ号沈没地点（潜水・伝承・文献）

4 地方公共団体等が行う調査・保存・活用（展示）に関する支援事業

① 史跡鷹島神崎遺跡の取組についての支援等

史跡鷹島神崎遺跡の調査手法や遺跡のモニタリング等について、経験を有する海外の研究者を招聘した共同研究や、新しい手法での活用の調査研究を実施した。

- ・海外研究者招聘による支援事業（オーストラリア・オランダ・デンマーク・中国・韓国）
- ・史跡鷹島神崎遺跡出土「てつほう」の透明液晶展示ケース製作及び上映コンテンツ作成
- ・伊万里湾海底地形 DEM（立体地形図）の作成及びビューワーの開発
- ・史跡鷹島神崎遺跡出土資料の X 線 CT スキャナー等による科学的調査
- ・鷹島 1・2 号船の船体復元モデル作成
- ・鷹島 2 号船船首現状復元模型作成

② その他の市町村水中遺跡保護事業への支援

- ・超高精細 8 K カメラによる水中遺跡の撮影実験（倉木崎海底遺跡）
- ・水中遺跡に関する展示の情報収集（北海道江差町開陽丸青少年センター展示、沖縄県立博物館・美術館特別展示、宮城県石巻市慶長使節船ミュージアム展示）
- ・X 線 CT スキャナーによる出土遺物調査（福岡県相島出土遺物・和歌山県オスマントルコ帝国艦船出土遺物）
- ・地方公共団体が行う水中遺跡の保護事業についての海外研究者招聘による支援事業（沖縄県多良間村へオランダ研究者招聘・鹿児島県宇検村へアメリカ人研究者招聘）
- ・水中遺跡保護に関する国庫補助事業への調査等各種支援（鹿児島県宇検村シンポジウム開催支援・沖縄県多良間村探査及び各種調査支援・鹿児島県徳之島 3 町合同探査事業支援・福岡県新宮町探査及び各種調査支援）

5 その他事業

- ・世界各国（91 カ国）の水中遺跡保護の取組状況取りまとめ
- ・ユネスコ及び主要各国の水中遺跡保護の資料・文献の収集及び翻訳
- ・海外の水中遺跡保護に関する最新情報の収集

6 関連事業

- ・世界考古学会議第 8 回京都大会でセッション（「世界の水中文化遺産の保護体制」）を実施（28 年度）

- ・九州国立博物館で水中考古学フォーラムを開催（28年度）
- ・九州国立博物館文化交流展特別展「水の中からよみがえる歴史－水中考古学最前線－」を実施（29年度）